

こんぶくろ池通信

2026年2月

第142号

NPO法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: http://www.konbukuroike.com

主な予定

2月14日（土）

～22日（日）

柏ネイチャークラフト展

於：あけばの山農業公園

2月19日（木）

アドバイザー会議

於：柏区画整理事務所

3月29日（日）

13:00～16:00

保全活動報告会

於：東京大学柏キャンパス

こんぶくろ 水の行方ウォーキングに参加して

市川 健治

皆様、薬師丸ひろ子の「メイン・テーマ」という曲をご存知ですか？

そう「時は忍び足で 心を横切るの～笑っちゃう 涙の止め方も知らない 20年も生きてきたのにね」というフレーズの名曲ですが、私のこんぶくろ池も同じようなもので、「水の行方も知らない 15年もやってきたのにね」って感じでした。心の中でいつも、この水が人々の生活にどのように関わって、どのように流れしていくのだろうかと思っておりましたが、ようやくその全容を解明すべく「こんぶくろ 水の行方ウォーキング」が実施され参加しました。

柏市のホームページで探ると、大堀川の水源で堀を伝って手賀沼まで流れているらしい。

国道16号を渡り若柴方面に向かうと、「開渠（かいきょ）」と呼ばれる蓋に覆われていない水路が現れました。どうも昔に農業用の水路としてこんぶくろ池の水を利用したものらしい。この水路に沿って進もうとしたが、工事中でやむなく香取神社を経由して進んでいくと調整池に水が流れ込んでいました。この水がこんぶくろ池から来た水で、ここで四方から来た水が集まり立派な川となり、公設市場脇を流れきらにけやき通り脇から松ヶ崎城址を回り込み、手賀沼に流れ込んでいたようです（昔は松ヶ崎城址のすぐ南側まで手賀沼の湖面が来ていたらしい）。

松ヶ崎城址を越えて住宅地を進むと、再び水の流れが現れ、大堀川に流れ込む地点に「地金堀樋管」があり、さらに立派な流れになって手賀沼方面に流れしていました。



長年心の中のわだかまりになっていた
「こんぶくろの水の行方」をようやく知り
得て、薬師丸に「どうだ！」と言いたい気
分なのでした。

こんぶくろ水の行方ウォーキング

2025年12月28日（日） 10:00-12:40

- ①こんぶくろ池自然博物公園 → 16号線横断 → ②香取神社 → ③北部中央1号調整池
 → ④柏公設市場 → ⑤松葉第二近隣公園（休憩）トイレ・バス停あり
 → ⑥地金堀・大堀川合流点 → 木崎橋 → ⑦常夜灯（元呼塚河岸）→ JR北柏駅

約8km



※ ⑤バス停名：ライフタウン中央

・北柏駅-ライフタウン循環、キャンパス駅-ライフ循環の2路線のバスがとまります。

・午前と午後で循環の向きが逆になるので、午前と午後でバス停が道路を挟み反対側にかわります。

3月2日（日）こんぶくろ池保全活動報告会から 鳥の調査記録

こんぶくろ池 鳥の調査記録

NPO法人こんぶくろ池自然の森

2024年1月～2024年12月

毎月第3火曜日 9:00～12:00

		2024年																				
		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12								
		日	16	20	19	16	21	25														
		天候	晴	曇り	雲・晴	雲・晴	晴	雲・晴														
		参加人数	5	4	7	6	6	6	み	み	み	4	6	8								
2	科	種名	2 0 1 4	2 0 1 5	2 0 1 6	2 0 1 7	2 0 1 8	2 0 1 9	2 0 1 0	2 0 1 1	2 0 1 2	2 0 1 3	2 0 1 4	2 0 1 5								
1	ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
2	モズ	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
3		カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
4	カラス	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
5		ハシボソガラス	○		○	○			○		●	●	●	●	●							
6	シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
7		ヤマガラ	○		○	○		○	○	○	●	●	●	●	●							
8	ヒバリ	ヒバリ	○	○		○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
9	ツバメ	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
10	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
11	ウグイス	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
12	エナガ	エナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
13	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○		●	●	●	●							
14		ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
15	ツグミ	シロハラ	○	○		○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
16		アカハラ										●										
17		キビタキ		○	○			○				●										
18		コサメビタキ			○																	
19	ヒタキ	エゾビタキ		○				○							●							
20		ルリビタキ				○	○	○														
21		イソヒヨドリ					○				●		●									
22		ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●		●							
23		ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	●				●							
24		セグロセキレイ	○																			
25	セキレイ	タヒバリ				○																
26		ピンズイ				○	○	○														
27		キセキレイ													●							
28		アトリ		○	○																	
29		カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○		●	●	●								
30	アトリ	シメ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●								
31		イカル			○																	
32		ベニマシコ				○	○	○														
33		ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
34	ホオジロ	カシラダカ	○	○		○	○															
35		アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
36		クロジ				○																
37	キツツキ	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
38		アカゲラ	○		○	○		○		○	●				●							
39	キジ	コジケイ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
40		キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
41	ハト	ドバト	○			○	○	○	○	○												
42		キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
43		カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
44	カモ	ハシビロガモ				○	○	○														
45		マガモ					○	○	○	○	●	●	●	●	●							
46		コガモ							○	●	●											
47		アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○					●							
48	サギ	コサギ				○																
49		ダイサギ							○						●							
50	メジロ	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
51	ウ	カワウ	○	○								●										
52		トビ							○													
53	タカ	オオタカ	○	○		○	○	○	○	○	●	●	●	●	●							
54		ノスリ				○	○															
55	カワセミ	カワセミ				○	○	○	○	○					●							
56	クイナ	クイナ						○				●										
57	チドリ	コチドリ							○													
58	カッコウ	ツツドリ							○													
59	ハヤブサ	チョウゲンボウ									●				●							
合 計(種)		27	29	25	30	33	33	28	32	34	42	13	26	27	23	17	17	—	—	18	18	22

地理学から見た千葉県

橋本谷 弘司



千葉県
(ゼンリン地図サイトより)



ヒグマ
(ウィキペディアより)



ツキノワグマ
(ウィキペディアより)



日本のブナの多様性
(茨城県自然博物館展示解説書より)

特に近年、クマが人里に降りてきて多くの人に危害を加えるなどの大きな社会問題となっています。日本には2種類のクマがいて、北海道のヒグマと本州と四国のツキノワグマです。ヒグマは体重200～500Kgで主として肉食性で攻撃性があり、ツキノワグマは60～120Kgで雑食性、防衛型攻撃性で胸の白い三日月型の模様が名前の言われです。

本州でクマが生息していないのが、わが千葉県です。千葉県は三方を海に囲まれ、平野が多く、大きな森林も少なく、山間部の標高も低いことからクマが他地域から移動してくるのが困難であり、定住する環境もないことから、過去においても生息していた記録はありません。

クマは生態系において重要な頂点捕食者であり、生物多様性を維持する上で人間と共に存を図りながら保全していくことが必要と言われていますが、奥山のクマが頻繁に人里に降りてきていることを考えると大変難しい問題です。

また、千葉県にないものとして樹木のブナがあります。ブナは樹高30mに達する高木となり秋に落葉します。ブナと言えば日本最初の世界遺産に登録されたブナの原生林がある白神山地（青森県・秋田県）が有名です。ブナは1000m程度以上の山に自生していますので、千葉県と沖縄県の2県は低山であるためブナは自生していません。但し、公園などで植栽されたブナを見ることができます。

ブナの葉の大きさは地域によって変化するのが特徴で、北に行けば行くほど葉は大きく薄く、南に行けば行くほど葉は小さく厚くなります。また、日本海側では葉は大きく薄く、太平洋側では葉は小さく厚くなります。葉の大きさが異なる理由は、その地域の気候の違いによるものですが、日本列島の気候変動の歴史のなかで、ブナの生育地を拡大させたり縮小させたりするタイミングで、葉の大きさの異なる集団が分化していったという説もあるようです。

【データ】

都道府県別最高峰（低い順）				可住地面積（都道府県面積比）		
第1位	千葉県	愛宕山	408m	第1位	大阪府	70%
第2位	沖縄県	於茂登岳	526m	第2位	千葉県	68.5%
第3位	大阪府	大和葛城山	959m	第2位	埼玉県	68.5%
(出典：ウィキペディア)				第11位	沖縄県	49.3%
				第47位	高知県	16.3%
				(出典：統計リアル2023年)		

千葉県は大消費地である東京都に接し、醤油は江戸時代から造られ現在でも日本一の生産量を誇っています。落花生、そら豆、かぶ、大根などの農作物も1位を占め、かぶの収穫量では柏市が全国一です。

また、銚子は北からの親潮（寒流）と南からの黒潮（暖流）が交錯し、利根川からの有機物を含んだ真水の流入により全国屈指の漁場が形成され、銚子港の漁獲水揚げ量は2025年には3年ぶりに全国でトップになりました。北海道の釧路港とは競い合っています。

千葉県の形、ごく一部ですが見えてきたような気がしました。



キッコーマン野田工場
(キッコーマン HP より)



銚子漁港
(銚子市漁業協同組合 HP より)

編集後記



1月からの定例活動でこんぶくろ池の泥上げを行っています。近年は小規模ながら毎年の活動計画の中にこんぶくろ池や弁天池の泥上げを入れていますが、岸から届く範囲での落ち葉掻きや泥上げを行う小規模なものでした。

しかし今年の小雨は異常で、昨年末からこんぶくろ池も完全に干上がっている状態ですので、今年は池の中まで足場を持ち込み泥上げを行っています。

振り返ってみると、こんぶくろ池の泥上げをNPOとして最初に行ったのが、2015年12月から2016年2月末までの約3ヶ月です（詳しくは当時のこんぶくろ池通信に記録がありますのでご覧下さい）。その時はポンプで池の水を抜きながらの作業でしたが、50年ぶりの「かいぼり」ということで、朝日新聞の記事にもなりました。

その時に確認できた湧水口は7箇所で、作業にあたった皆で非常に感動したのを覚えています（左の写真は当時確認された湧水口）。

時には足を取られて泥だらけになりながら大変ではありますが、池と森を守っていく大切な作業ですので、もう少し頑張っていきましょう。

萩原 秀夫